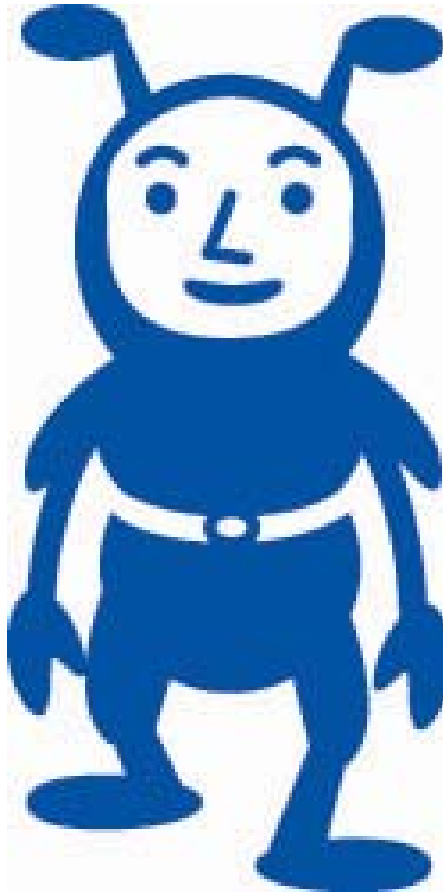


# 環境活動レポート

2010年版



 YOKOHAMA ARENA

# 株式会社 横浜アリーナ 環境活動レポート(2010年版)

2011年4月1日

## 1. 組織概要

### (1) 事業者名及び代表者名

事業者名 株式会社 横浜アリーナ

代表者名 代表取締役社長 篠澤 康夫

### (2) 所在地

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜3丁目10番地

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務部長 井原 周二

環境管理担当者 施設課主任 小谷 暢宏

連絡先 電話 045-474-4000 FAX 045-474-4040

### (4) 事業内容

イベントホール賃貸他

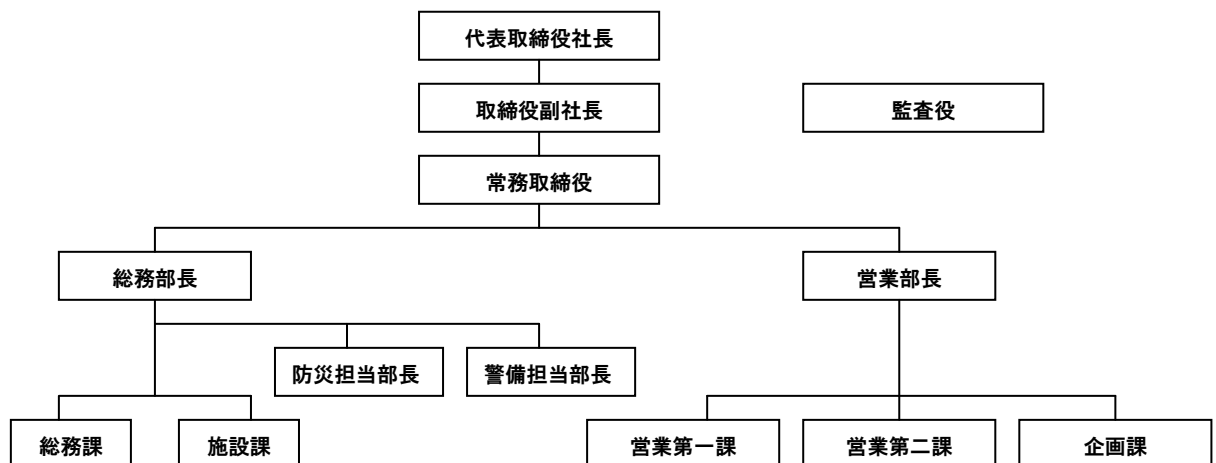
### (5) 事業の規模

活動項目	単位	2007年	2008年	2009年	2010年
稼働日(キャンセル稼働含)	日	272	239	260	276
売上高	百万円	1,933.1	1,720.1	1,840.5	1,902.6
従業員(役員を除く)	人	19	19	20	20
床面積	m <sup>2</sup>	45,000	45,000	45,000	45,000

### (6) 関連事業所の有無

関連事業所: 無 関連事業所名: なし

### (7) 組織図



## 2. 対象範囲及びレポートの対象期間

対象範囲: (株)横浜アリーナ

レポートの対象期間: 2010年1月1日～2010年12月31日

### 3. 環境方針

#### 〈 環境基本方針 〉

##### ■基本理念

横浜アリーナは、「地球環境の保全」を経営の最重要課題のひとつと認識し、持続可能な社会の構築に向けて、事業活動のあらゆる場面において、環境保全施策を包含した取組みを、継続的に推進していきます。

##### ■行動指針

横浜アリーナでは、すべての事業活動が環境に何らかの影響を与えていることを認識し、以下の環境への取組みを推進していきます。

#### 1. 事業活動における環境保全

すべてのイベント開催において、環境保全(省資源・省エネルギー・ゴミ減量化・騒音低減・交通渋滞の防止等)に寄与できるように努めます。

#### 2. 継続的な環境改善

環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムと環境保全実績が継続的に改善できるように推進します。

#### 3. 法規制の遵守

環境関連の法律・規制等を遵守し、一層の環境保全を図ります。

#### 4. 重点テーマ

次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定し、定期的に取り組結果を見直すことにより、効果的な取組みを行います。

(1)電力・ガス・水の消費や廃棄物の排出状況等をチェックして、環境への負荷を把握し、特にCO2 排出抑制、廃棄物排出抑制、総排水量抑制については、改善目標値を設けて目標管理を行います。

(2)環境にやさしい物品(環境物品)等を調達するグリーン購入の取組みを推進するため、購入率の目標値を設けて目標管理を行います。

#### 5. 環境啓蒙活動と地域社会貢献活動の推進

環境活動レポートの公表を行い、社外への環境啓蒙活動に取り組むとともに、特に地域社会への環境貢献活動に積極的に参加します。

#### 6. 環境方針の周知

環境教育・社内広報活動により、全社員・業務委託先従業員に対して環境方針の周知と環境に関する意識向上を図ると共に、横浜アリーナ利用者へも館内掲示やホームページ等により環境方針のご理解とご協力をお願いしています。

2011年4月1日

株式会社 横浜アリーナ  
代表取締役社長 篠澤 康夫

#### 4. 環境目標とその実績

##### 4.1 環境目標

###### (1) 主要環境負荷低減目標

2007年度、2008年度目標は2005年度実績を基準に設定した目標である。2009年度目標は、年間稼働日数目標に近い稼働日数であった2006年度実績を基準として新たに目標の設定を行った。ただし、廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量に関しては、2007年から飲料容器のベンダー回収を実施しているため、廃棄物等総排出量は-12%、廃棄物最終処分量は-14%の目標設定とした。また、2010年度の目標は2009年度の前単位から1%減らした数値を目標としている。

項目	単位	2007年 目標	2008年 目標	2009年 目標	2010年 目標
総エネルギー投入量 売上高当り	GJ/百万円	32.70	32.40	32.00	31.68
水資源投入量 売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	17.37	17.17	21.00	20.79
二酸化炭素排出量 売上高当り	kg-CO <sub>2</sub> / 百万円	1,289	1,276	1,280	1,273
廃棄物等総排出量 売上高当り	kg/百万円	61.04	60.36	66.00	65.34
廃棄物最終処分量 売上高当り	kg/百万円	52.14	51.56	56.00	55.44
総排水量(推定値) 売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	15.69	15.51	19.00	18.81
コピー用紙購入量	kg	837	828	850	800

###### (2) その他の環境目標

項目	単位	2007年 目標	2008年 目標	2009年 目標	2010年 目標
グリーン購入率	%	95	85	85	85

### (3)当社に該当しない環境負荷項目

#### ・総物質

当社は貸しホール業であるため、製品の生産活動を行なっておらず、原材料の使用はありません。

#### ・化学物質

当社は貸しホール業であるため、化学物質の使用はありません。

#### ・製品生産量

当社は貸しホール業であるため、製品の生産はありません。

#### ・水質汚濁物質

当社は貸しホール業であるため、使用する水は生活用水や清掃用水等であり、使用後は全て一般下水道配管を経由し、横浜市港北下水処理場で処理されるため、水質汚濁物質の発生はありません。

## 4.2 環境実績

### 主要環境負荷項目

項目	単位	2007年 実績	2008年 実績	2009年 実績	2010年 実績
総エネルギー投入量	GJ	59,165	56,585	56,853	55,164
売上高当り	GJ/百万円	30.61	32.90	30.89	28.99
水資源投入量	m <sup>3</sup>	34,379	35,071	33,135	30,513
売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	17.78	20.39	18.00	16.04
二酸化炭素排出量※	kg-CO <sub>2</sub>	2,330,660	2,227,633	2,228,872	2,163,579
売上高当り	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	1,206	1,295	1,211	1,137
廃棄物等総排出量※	kg	105,344	110,558	124,157	171,634
売上高当り	kg/百万円	54.49	62.27	67.46	90.21
廃棄物最終処分量※	kg	95,484	94,858	115,947	122,734
売上高当り	kg/百万円	49.39	55.15	63.00	64.51
総排水量(推定値)	m <sup>3</sup>	30,608	31,885	30,522	27,982
売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	15.83	18.54	16.58	14.71
コピー用紙購入量	kg	855.0	871.0	808.0	1258.0
グリーン購入率	%	82	81	71	79

※二酸化炭素排出量については従来使用してきた換算係数で算出しております。2011年からは平成20年実績での換算係数を使用いたします。この係数に変更した場合、排出量は、2,718,852kgであり、原単位は1,429となります。廃棄物に関しては本年より換算係数を変更して集計しており、従来使用してきた換算係数では、二酸化炭素廃棄物等総排出量の原単位は79.17、廃棄物最終処分量の原単位は53.47となります。2011年度は二酸化炭素排出量、廃棄物等総排出量について、新たな換算係数で算出いたします。

#### 4.3 環境への取組みの自己チェック結果

エコアクション21の2009年版(環境活動評価プログラム)の環境への取組みの自己チェックリストに基づき、自己チェックした結果の概要は以下の通りです。

##### 2010年における環境保全の取組みチェック結果

施 策 名 称	評価点	基準点	実施度合
	pt	pt	%
<b>1. 事業活動へのインプットに関する項目</b>			
1)省エネルギー	98	104	94
2)省資源	22	26	78
3)水の効率的利用及び日常的な節水	26	26	100
4)化学物質使用量の抑制及び管理	0	0	-
小 計	146	156	93
<b>2. 事業活動からのアウトプットに関する項目</b>			
1)温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等防止	10	10	100
2)廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理	24	32	75
3)排水処理	0	0	-
4)その他生活環境に係る保全の取組等	0	0	-
小 計	34	42	80
<b>3. 製品およびサービスに関する項目</b>			
1)グリーン購入	4	8	50
2)製品及びサービスにおける環境配慮	0	0	-
小 計	4	8	50
<b>4. その他</b>			
1)生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組	0	0	-
2)環境コミュニケーション及び社会貢献	29	32	90
3)施主・事業主における建築物の増改築、解体等にあたっての環境配慮	12	12	100
小 計	41	44	93
<b>全 項 目 合 計</b>	<b>225</b>	<b>250</b>	<b>90</b>

## 5. 主要な環境活動計画の内容(2006年～2010年)

当社の主要な環境保全に向けた具体的な取組み内容を以下に示します。

### (1) 総エネルギー投入量、二酸化炭素排出量の削減

- ① 省エネタイプの照明器具の導入(正面広場外灯・駐車場側外灯灯具交換)
- ② 適切な空調温度設定(クール・ビズ、ウォーム・ビズ活動の実施)
- ③ 不要な照明の消灯 (裏動線の飲料自動販売機の夜間照明消灯)(2007年～)
- ④ 主催者への省エネ活動協力要請(2006年～)
- ⑤ ロビー電飾広告看板の LED 化(2007年)
- ⑥ ガス冷温水機温度制御変更工事(2007年)
- ⑦ センター常設大型映像装置の LED 化(2008年)
- ⑧ 館内モニターの省電力液晶モニターへの更新(2007年～2008年)
- ⑨ 上水給水ポンプ小型インバーター化工事(2008年、2010年)
- ⑩ アリーナ周囲外灯の省エネタイプへの更新(2009年)

高効率低周波無電極ランプ※は、少ない消費電力で従来水銀灯と同等の明るさを確保できる

※無電極点灯方式: 蛍光体を塗布したガラス球に水銀蒸気を封入し、内側から高周波磁界を発生させて、放電・発光させる方式。寿命の主な原因となるフィラメントと電極を採用しないため、60,000 時間の長寿命と省エネが実現。

- ⑪ 蓄光タイプのアンチスリップテープ施工(2009年)  
フットランプ無しでも足元の安全が確保できる蓄光アンチスリップテープを全面に施工
- ⑫ 給湯ボイラーの更新(2010年)  
老朽化したボイラーを高効率タイプに更新



### ⑬ 高効率蛍光灯への交換(2010年)

裏動線の蛍光灯を高効率タイプの HF 蛍光灯に交換し、省電力を実現。

⑭BOX席・裏動線トイレでの電球LED化(2010年)

管球そのものの消費電力を抑えることに留まらず、発熱を抑えることが出来たため夏季における空調効率の向上を実現

(下は赤外線サーモグラフィで計測した管球交換の前後写真 左:54.2℃ 右 34.3℃)



⑮裏動線トイレへの人感センサーの設置(2010年)

不要時の電力消費を抑えるため、裏動線のトイレに人感センサー設置しました。



⑯指定弁当会社に対する衛生監査

弊社の指定する弁当会社に対し、弁当工場での衛生監査を実施しました。



## (2) 水資源投入量、総排水量の削減

- ①各トイレに節水ポスター貼付(2006年～)
- ②ガス式冷温水機の運転削減への取組(2006年～)

## (3) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量の削減

- ①主催者に再利用資材、花束、パンフレット等の持ち帰りのお願い
- ②ゴミ箱を区分し、お客様にゴミ分別の協力お願い(2003年11月から実施)
- ③ゴミ収集所での分別実施(2003年11月から実施)
- ④ゴミ袋のエコ製品(リサイクル原料使用)の採用(2007年)
- ⑤飲料容器(缶、PET)のベンダーによる回収(2007年)
- ⑥ダンボール等紙資源の有価物処理(2008年～)
- ⑦古着(作業着)の再資源化(2007年～)
- ⑧アリーナ専用産業廃棄物置き場設置(2008年)
- ⑨希望者への不要物の譲渡・リサイクル化(2009年)
- ⑩産業廃棄物中間処理場監査(2009年～)

神奈川県内にある中間処理場の監査を実施

チェックリスト(社団法人 全国産業廃棄物連合会 産業廃棄物処理業者  
[収集・運搬]評価票)に基づいて実行(1回/年実施)



## ⑪産業廃棄物最終処分場監査(2010年)

栃木県内にある最終処分場監査を実施



#### (4)コピー用紙購入量の削減

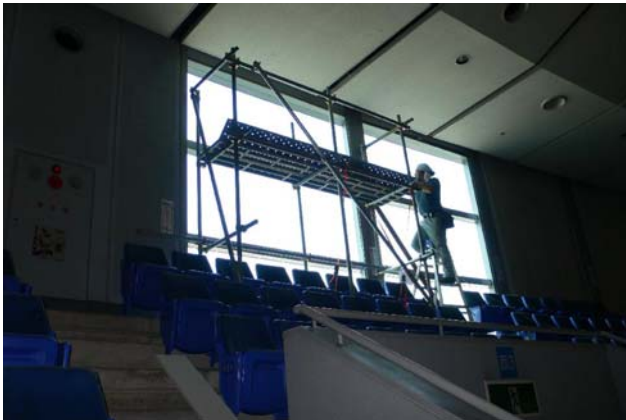
- ①パソコンメールの活用(回覧物の削減、PDF ファイルの多用)
- ②両面コピーの励行
- ③プロジェクターによるプレゼンテーション(2007年～)
- ④各会議体についてもプロジェクターによるペーパーレス実施(2010年～)

#### (5)グリーン購入の推進

- ①再生紙の使用拡大(コピー用紙、封筒、名刺、トイレトーパー等)
- ②エコマーク文房具の購入拡大
- ③家具、家電品のグリーン商品購入拡大
- ④作業衣のエコ製品導入(2007年～)

#### (6)事業活動へのインプットに関する取組み実施率向上

- ①省エネルギー、新エネルギー使用の拡大
  - ・省エネ型空調設備の導入と運転管理
- ②省資源、グリーン購入
  - ・コピー用紙使用量削減
  - ・再生紙使用拡大等のグリーン購入の推進
- ③節水、水の効率的利用
  - ・トイレ用水節減への積極的な取組
- ④ロールスクリーンの改善による積極的な昼光利用(設営・撤去時)(2009年～)



#### (7)事業活動からのアウトプットに関する取組み実施率向上

- ①二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止
  - ・省エネ型空調設備の導入と運転管理
  - ・省エネ運動の推進

## ②廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

- ・イベント主催者によるゴミ分別回収活動(2010年)

通常のゴミ箱使用を止めて、持込の分別ゴミ箱でゴミを回収



- ・コピー用紙使用量削減
- ・ゴミ分別実施とリサイクル推進(2008年～)  
横浜市の分別区分に従ったゴミ箱の購入・配備(業務委託会社含む)

## ③イベントに関する騒音等の防止

- ・イベント時の騒音測定(2009年～)
- ・外部持込電源車の設置位置の変更(2010年)



## (8)環境経営システムに関わる取組み実施率向上

### ①環境保全のための仕組み・体制の整備

- ・体制整備の推進
- ・委託会社、お客様への協力要請の推進

### ②環境教育、環境保全活動の推奨等

- ・朝礼、連絡会等機会を捉えての教育、協力要請

③情報提供、社会貢献、地域の環境保全

- ・ホームページへの積極的な情報提供
- ・アリーナ敷地における緑化活動(クリスマスローズの栽培)



- ・横浜市港北区が月1回主催する清掃活動(G30 活動)に参加。  
2010年度は6回実施され6回とも参加した。参加人数延べ 85 名。(ー1 名/前年)



## 6. 環境目標の実績

### 6.1 主要環境負荷目標、その他環境負荷目標と実績評価(2010年)

項目	単位	目標	実績	実績対目標
総エネルギー投入量 売上高当り	GJ/百万円	31.68	28.99	+9.3 109.3%
水資源投入量 売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	20.79	16.04	+29.7 129.7%
二酸化炭素排出量 売上高当り	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	1,273	1,137	+12.0 112.0%
廃棄物等総排出量 売上高当り	kg/百万円	65.34	79.17	-17.5 82.5%
廃棄物最終処分量 売上高当り	kg/百万円	55.44	53.47	+3.7 103.7%
総排水量(推定値) 売上高当り	m <sup>3</sup> /百万円	18.81	14.71	+27.9 127.9%
コピー用紙購入量	kg	800	1258	-36.4 63.6%
グリーン購入率	%	85	79	-7.1 92.9%

#### ①総エネルギー投入量

舞台設営時の省エネ協力要請、事務所等間接部門の空調温度の適切な設定や不要な照明の消灯等に取り組み、目標値に到達(実績対目標:+9.3)することが出来ました。売上増減が原単位変動の大きな要因となっています。今後も省エネ対策を検討していきます。また、以下にエネルギー使用量の内訳と原油換算量を記載します。

エネルギーの種類			使用量			換算係数	
			単位	数値	熱量(GJ)	数値	単位
燃料	石油	A 重油	kl	1	39.1	39.1	GJ/kl
	その他燃料	都市ガス	千m <sup>3</sup>	80	3,595.9	45.0	GJ/千m <sup>3</sup>
電気	一般電気事業者	昼間買電	千kWh	4,701	46,864.7	9.97	GJ/千kWh
		夜間買電	千kWh	577	5,355.7	9.28	GJ/千kWh
合計					55,855.5		
原油換算(kl)					1,441.1	0.0258	kl/GJ

## ②水資源投入量

10年度は目標に到達(実績対目標:+29.7%)することが出来ました。今後も水使用量削減のため、新たな節水対策について検討していきます。

## ③二酸化炭素排出量

総エネルギー投入量にほぼ比例するため、総エネルギー投入量と同様、目標値(実績対目標:+10.7%)を達成することが出来ました。また、二酸化炭素排出量の目標値もクリアすることが出来ました。以下に、購入電力の二酸化炭素排出量算出に係る換算値を記載します。

電力量における二酸化炭素排出量換算値	
昼間電力	0.378kg/kWh
深夜電力	0.378kg/kWh

## ④廃棄物等総排出量

10年度は目標に到達することが出来ませんでした。(実績対目標:-38.0%)廃棄物については各種設備保全工事に伴う工事廃棄物や、イベント時の廃棄物量の増加、また算出係数の精度を上げたことが影響を与えたと考えられます。廃棄物の実態をより正確に把握して、対策を検討すると共に、営業部を通じて、施設利用者に対して廃棄物の削減、分別の徹底について申し入れるようにいたします。

## ⑤廃棄物最終処分量

廃棄物最終処分量についても④と同様に目標に到達することが出来ませんでした。(実績対目標:-16.3%)各種設備保全工事に伴う工事廃棄物、イベント時の廃棄物量の増加に影響を与えたと考えられます。廃棄物等総排出量を削減することで、最終処分量の削減に繋がっていきます。

## ⑥総排水量(推定値)

水資源投入量から冷却塔での蒸発量を除いたもので、水資源投入量にほぼ比例します。10年度は目標に到達(実績対目標:+21.8%)することが出来ました。今後も節水施策を検討していきます。

## ⑦コピー用紙購入量

パソコンメールの活用(回覧物の削減 PDF ファイル化)、両面コピーに取り組み、用紙使用量の削減を目指しました。しかし10年度は目標に到達することが出来ませんでした。(実績対目標:-36.4%)。告知の形式や各書類に関して、削減方法を検討・実施を行うと共に、各社員への啓発を進めていきます。

## ⑧グリーン購入率

事務用品については、総務課を中心にグリーン購入の推進を図っておりますが、2009年は通年で79%となり、目標に到達できませんでした。今後はキリングループのグループ購買に参加することにより、より多くの選択肢ができることでコストダウンとグリーン購入率の向上を図っていきます。

## 6.2 その他の環境項目目標と実績評価(2010年)

項目	単位	2010実績	2011目標
事業活動へのインプットに関する取組み項目	実施率(%)	93	90
事業活動からのアウトプットに関する取組み項目	実施率(%)	80	90
製品・およびサービスに関わる取組み項目	実施率(%)	50	90
その他の取組み項目	実施率(%)	93	90
全項目	実施率(%)	90	90

下記の3項目に関して、エコアクション21のガイドラインが2009年版に移行したことに伴い目標をそれぞれ実施率 90%として再設定いたします。

- ①事業活動へのインプットに関する取組み項目
- ②事業活動からのアウトプットに関する取組み項目
- ③環境経営システムに関わる取組み項目

## 7. 環境活動計画における次年度の取り組み内容

### (1)2011 年度の主要環境負荷目標[単年度]

	原単位	設定基準	前年度目標達成状況
総エネルギー投入量	31.36(GJ/百万円)以下	前年目標比 -1%	達成
水資源投入量	20.58(m <sup>3</sup> ・百万円)以下	前年目標比 -1%	達成
二酸化炭素排出量	1260(kg/百万円)以下	前年目標比 -1%	達成
廃棄物等総排出量	63.86(kg/百万円)以下	前年実績比 -1%	未達成
廃棄物最終処分量	13.97(kg/百万円)以下	前年実績比 -1%	未達成
総排水量(推定値)	18.62(m <sup>3</sup> ・百万円)以下	前年目標比 -1%	達成

総エネルギー投入量・水資源投入量・二酸化炭素排出量・総排水量は 2010 年の目標より 1%削減することを目標値としたため、上記の目標となります。

廃棄物等総排出量に関しては追跡調査を行った結果、有価物を合算した値で原単位を算出していたことが判明したため、前年度の実績値を再度算出し、その実績値から1%削減した値を目標値として決めました。また、廃棄物最終処分量についても、これまで最終処分場で埋め立て処分がされていると認識していた廃プラ、木くず、ガラスくず、金属くずについてもリサイクルされていることが判明したため、廃棄物等総排出量と同様に、実績値を再度算出した上で、その実績値から1%削減した値を目標値として決めました。

また、コピー用紙購入量とグリーン購入量は、前年の実績を踏まえ、コピー用紙購入量、グリーン購入は達成できるまで目標値を維持いたします。なお、これまではアリーナ事務所使用分のみを購入量として算出していましたが、購入量の範囲を見直し主催者貸し出し用の購入量も対象として目標値を設定いたしました。

	目標値	設定基準	前年度目標達成状況
コピー用紙購入量	1200(kg/年)以下	前年目標維持	未達成
グリーン購入率	85%	前年目標維持	未達成

## (2)中長期の主要環境負荷目標

2009年8月3日に策定されましたキリングroupの掲げる以下①～③の定量目標に貢献するよう、ハード面、ソフト面での対策を実施いたします。

- ①バリューチェーン全体で、2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を1990年比で半減させます。
- ②「製造、物流、オフィス」については、2050年までに毎年1%以上削減します
- ③国内の「製造、物流、オフィス」については、2015年には、1990年比で35%削減します  
ただし、2009年の目標策定時に現状では達成が難しいことから役員と協議の結果定めた、下記の目標を継続して実施していきます。

	目標値	設定基準	前年度目標達成状況
年間の二酸化炭素排出量	2800.00t以下	前年排出量比0.5%減	達成

去年の目標値は2206.64tであり、これは電力の換算係数が0.378で出されているものであります。2011年から換算係数が0.482となるため、2011年の目標値は、2010年の目標値の比を乗じたものになります。

$$(2011年目標値) = (2010年目標値) \times 0.995 \times (0.482/0.378)$$

## (3)取り組み内容

これまでの取り組みにおいては、ハード面の効果に期待するものが主なものでした。

各社員が環境に対する意識を持ち、各自でできることを実施していきます。また、お客様に対して協力を呼びかけるために、これまで以上に営業部と連携してソフト面の取り組みも強化していきます。特に、イベントに関する騒音については騒音等対策委員会を設置し、未然の防止対策を講じていきます。

社員の自助努力によるもの

- ①退館時の電源シャットアウトの徹底
- ②不要時のエレベーター停止(東・西)
- ③蛍光灯の間引き
- ④事務所内の窓開放による換気
- ⑤不在時の事務所入り口照明の消灯

お客様に対して協力を呼びかけるもの

- ①ピクト、ポスター等の掲出による主催者ゾーンの省エネ働きかけ
- ②持ち込み電源車の設置位置の変更

ハード面の整備に関するもの

- ①誘導灯(LED)の一部導入

## 8. 環境関連法規の違反、訴訟等の有無

環境関連法規への遵守状況は、年2回チェックリストで確認し、結果は以下の通りです。

内容	2007年		2008年		2009年		2010年	
	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
法律違反の有無	無	無	無	無	無	無	無	無
訴訟の有無	無	無	無	無	無	無	無	無

過去3年間、環境関連法規について違反、訴訟等はありません。

## 9. 代表者による全体評価と見直し(マネジメントレビュー)

各取り組み状況についてはPDCAを確実に回して、年々スパイラルアップしていることが確認できました。パフォーマンスの目標レベルについては必ずしも自社でコントロールできるものでないため、難しい面がありますが常に高めの目標にチャレンジしていただきたいと思います。

地域対策についてはここ数年力を入れてきましたが、コミュニケーションをしっかりと取りながら誠実に対応していただきたいと思います。

一方、今後の課題としては環境負荷低減活動を横浜アリーナだけの活動にとどまらず、アリーナを利用していただいている主催者も一緒に巻き込んで一体となった活動を目指していただければと思います。

## 10. 社会的取組の状況

### (1)地球温暖化防止国民運動への参加

#### ①参加表明 2005年6月9日

・6つの具体的な温暖化防止の行動への呼びかけ

社員、業務委託会社、イベント主催者、来場者に活動を呼びかけた

#### ②「チーム・マイナス6%」への登録 2005年6月28日～2010年5月31日

#### ③「クール・ビズ」活動への取組 2010年6月1日～9月30日

#### ④「ウォーム・ビズ」活動への取組 2010年1月1日～2009年3月31日

2010年12月1日～2011年3月31日

#### ⑤「チャレンジ25」への登録 2010年6月1日～

## (2)社会的取り組み

- ①使用済みペットボトルキャップの売却益の寄贈(ポリオワクチン) 2008年～
- ②ベルマーク回収・地域小学校に引渡し 2008年～
- ③救命訓練(2010年6月)  
普通救命講習(普通救命講習の内容にAEDの知識の確認と実技の評価が加わったコース)  
の全員受講



- ④主催者警備・港北消防署と実施した総合防災訓練(2010年8月)  
港北消防署との連携訓練が行われました



以上